

# 第4次さむかわ男女共同参画プラン

平成28年度事業実績評価報告(案)



～男女がともに輝くように～

さむかわ男女共同参画プラン推進協議会

### 【評価の対象】

#### ①事業実施担当課が実施する各事業の評価

各事業ごとに、事業実施担当課が自己評価を行い、協働文化推進課において、その実施状況を取りまとめ、さむかわ男女共同参画プラン推進協議会（以下「推進協議会」という。）に報告し、意見を伺う。

#### ②基本目標の評価

第4次さむかわ男女共同参画プランで定める4つの基本目標の評価は、各事業の評価内容を踏まえ、推進協議会において実施する。推進協議会では、各基本目標が計画期間の中でどの程度進んでいるのか、遅れている部分についてはどのようにして進めるべきかなどについて、総合的な広い観点から評価するものとする。

なお、この基本目標の評価結果は次期計画の策定に関し重要な参考資料とする。

### 【各事業の評価基準】

事業実施担当課が、目標の「達成度」、「今後の方向性」について自己評価を行う。判定区分は下記のとおり。

#### 「目標の達成度」

- A：目標達成
- B：概ね目標達成
- C：目標に向け事業が遅れている
- D：目標に向け事業がほとんど進んでいない

#### 【目標の達成度】についての考え方

- A：目標値に達している
- B：目標値に対し80%以上の実績値
- C：目標値に対し80%未満の実績値
- D：目標値に対し取り組むことができなかった

#### 「今後の方向性」

1. 更に充実強化していく
2. 計画どおり取り組む
3. 一部見直しが必要
4. 事業の休止または廃止

<基本目標Ⅰ あらゆる分野での男女共同参画の推進>

施策の基本的方向 1. 政策や方針決定過程などへの女性の参画の促進

施策の内容(1) 事業所等への女性登用の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績					
1	管理職への女性登用の推進		18	18				女性職員の比率が低い年代であることから実績が低下している。	C	目標値到達には至らなかったため。	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職としての割合は低下しているものの係長級には女性が増えているとお聞きし安心した。今後管理職への積極的登用を進めて頂きたいと思う。</li> <li>・女性職員の比率が低い年代(管理職の適正年齢である50歳以上)であるとのことであるが、今後の女性管理職登用に向け、女性職員を育成するプログラム(女性職員を対象としたものだけではなく、女性職員がいる男性管理職を対象とした意識改革研修(過剰な遠慮と不足している配慮の両方を学ぶなど)も併せて行うと効果的)の実施など、具体的な工夫を図り、女性登用を推進してほしい。</li> <li>・女性職員の管理職への育成は引き続き行って頂き、女性登用の推進を進めて頂きたい。</li> <li>・管理職登用の実人数比較ではなく、男女それぞれの登用率で比較することができると評価しやすい。</li> <li>・管理職への登用は、男女を問わず個人の能力や適性によるものが大きく、単年度での女性比率を目標とすることは合理的でないと考える。中長期的な人材育成の中での女性管理職の育成計画を検討してはどうか。</li> <li>・女性職員の採用年度による数のばらつき等にもよるので、年度ごとによる違いがあるので、評価はつけにくい。目標値は男女の職員比に応じて設定するものではなく、女性の積極的採用やジョブローテーションなど具体的な取り組みを実施することにより登用にに向けた環境整備がどのようにはかかれたかが重要である。環境整備の実施について報告すること。さらに、職種による登用にばらつきがあることが想定されるため、職種別(保育士、保健師、栄養士、一般職など)管理職の比率も併せて公表していただきたい。</li> </ul>
	事業所としての町の取り組みとして、能力や意欲のある女性の管理職への登用を推進します。											
2	勤労者実態調査の実施			50				次回平成29年度実施予定		3年ごとに実施している調査であり、平成28年度は未実施。次回は平成29年度に実施予定。	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年ごとの実施ということだが、参考として26年度の実績を入れていただけると、解りやすいと思う。</li> <li>・3年ごとの調査なので評価はつけにくい。(今後、経年的な傾向を読み解くためには、ある程度の回収率が求められている。目標数値とのかなりの乖離があるので、次回調査時には、目標値を下げるのではなく、目標値を達成するための方策を講ずること。また、調査項目について、社会情勢の変化や労働をめぐる法制度などの変化もあることから、通常項目に加えた設問も必要ではないか。例えば「女性の活躍推進法」に関連した質問項目などの追加。できれば、事前に協議会に設問項目などの情報提供や意見を求めることも必要と考える。また、分析に当たっては、国・県等の調査の結果も踏まえ、町内の女性労働者の実態が浮き彫りになるようにすること。)</li> </ul>
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、女性登用の向上を図ります。											

施策の内容（２）町審議会などへの女性委員の登用

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
3	女性委員登用の推進		22	24	/	/	/	<p>地方自治法(第202条の3)に基づく審議会等の女性の登用状況                      該当する審議会等数 25                      総委員数 276人                      うち女性委員数 54人                      女性委員比率 19.6%</p>	B	<p>前年度(H27年度18.7%)より登用率が若干増加したが目標値には及ばなかった。各種審議会等を所管する担当課に対し委員の改選時には女性委員登用の推進について配慮いただくよう依頼した。</p>	協働文化推進課	<p>・少しずつではあるが、登用率はアップしており、地道な働きかけの結果ではないかと思う。今後も目標達成に向け、女性委員登用の推進について、粘り強く働きかけを行ってほしい。</p> <p>・少しずつ登用率はアップしているが、目標達成の為関心を持ってもらえるよう工夫も大切と思う。</p> <p>・各審議会の女性委員登用率について、2017(平成29)年度までに女性委員登用率40%を目標目標値達成のためには、目標値の設定がかなり低い水準にあり、C評価である。さらに、「1. 更により充実強化していく」を求めたい。審議会に委員を出している団体の意識改革をすすめることが大事である。公募委員についても選任にあたり配慮も必要かと思われる。</p>
	町審議会などの職指定委員の見直しを図り、女性委員の登用をより一層推進します。	町審議会の女性委員登用率(%)							20			

施策の内容（3）住民活動などにおける女性の参画の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績					
4	女性の活躍のための講座の開催		30	30 50				<p>男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。</p> <p>①男女共同参画推進市町村連携講座「男女がともに輝く未来へ～みんなで考えよう協働のまちづくり～」 日時：平成29年1月22日（日） 場所：寒川町民センター展示室1 参加者：35人（男性22人、女性13人） 講師：萩原なつ子さん（立教大学社会学部/大学院21世紀デザイン研究科教授） 内容：地域における男女共同参画について理解を深め、協働で地域の課題を解決するためには女性の能力活用、参画促進が重要でそのためには男女とも意識改革が必要不可欠であることを学ぶことを目的に実施。5人×7組のグループ分けを行い、冒頭に9マス自己紹介を行い、男女共同参画基本法が市町村の計画のベースになっていることや、新しい協働、歴史的背景など替え歌を交え、わかりやすくご講演いただいた。後半は、ワールドカフェ方式でテーマ「寒川町でみんながいきいき暮らしていくにはどうしたらいいか」についてアイデアを出し合い、グループごとに発表をした。</p> <p>②2市1町（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）広域連携事業男女共同参画特別講演会「介護は突然やってくる」 日時：平成28年10月15日（土） 場所：藤沢NDビル6階6-1会議室（藤沢市） 参加者：79人（男性35人、女性44人） 講師：太田 差恵子さん（介護・暮らしジャーナリスト） 内容：講師の20年以上の取材活動やNPO法人での経験からもしも親が「突然」倒れたら介護と自分の仕事をどのように両立していけばよいかについて、具体的な実践的な手法をお話いただいた。</p> <p>③平成28年度防災講演会「あなたは時どう動く～母として、嫁として、職員として～」 日時：平成29年3月12日（日） 場所：寒川総合体育館多目的室 参加者：125人 講師：澤田裕美子さん（福島県大熊町健康介護課保健衛生係長）武内一恵さん（福島県大熊町健康介護係長） 内容：東日本大震災発生に職員としてそれぞれの立場で災害対応に取り組まれた当時の経験と教訓など女性の視点でお話いただいた。</p> <p>町以外で開催される講座の情報提供 3件（2市1町広域連携事業）</p> <p>女性リーダーの育成や、地域活動等への参画に結び付くよう、内容、講師、開催日、時間帯などを検討し、一人でも多くの方が参加を希望する講座を開催する必要がある。</p>	A	<p>①男性の参加者数が女性を上回り、参加者数についても目標値を上回った。ワールドカフェ方式のグループワークでは、性別や年代の垣根を越えた話し合いができたことで満足度の高い講座となった。</p> <p>②参加者も40-50代の有業者の男女が多く、ワーク・ライフ・バランスを進めていくコツを得る機会を提供できた。</p> <p>③災害対応の経験を女性から直接お聞きすることができ、女性の視点を活かした対策や心構えなど防災意識の向上につながった。</p>	<p>協働文化推進課</p>	<p>・ワールドカフェ方式のグループワークを取り入れたことにより、高い満足度が得られ、参加者数も目標値を上回ったことは評価できる。</p> <p>・興味を持ちやすいテーマでとても多数の参加者があり良いと思うが、町内の方はどの程度参加されていたのでしょうか。</p> <p>・グループワークを行ったことで、講座を聞くだけではなく参加する意識も高く満足度につながったのだろう。町民センターでの開催も寒川町民は参加しやすかっただろう。</p> <p>・グループワークやワールドカフェなどで参加者が積極的な意見交換できる形態で実施されたことは、意義があったといえる。今後集客の方法等を工夫することが必要である（早めの広報）アンケートなどの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。また、身近な問題をテーマ（介護・子育て・防災等）の継続的な開催を望む。</p> <p>・①③とも寒川町内で開催され参加人数も目標を大幅に上回り内容も満足度の高い講座となり、高く評価できる。特に③では女性のそれぞれの立場としての具体的な災害対応のお話が直接聞けることは実際の災害時にとても役立つうえ、防災意識向上につながると思う。今後も身近な内容で多くの人が参加したくなるような講座の開催を期待する。</p>
	女性の活躍促進のための講座を開催し、女性リーダーの育成や住民活動等への参画を促進します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。		239									

施策の基本的方向 2. 女性の活躍のための支援  
 施策の内容 (1) 女性の人材育成の充実

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性			
5	女性の活躍のための講座の開催 (再掲)		30	30				男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。	A	①男性の参加者数が女性を上回り、参加者数についても目標値を上回った。ワールドカフェ方式のグループワークでは、性別や年代の垣根を越えた話し合いができたことで満足度の高い講座となった。 ②参加者も40-50代の有業者の男女が多く、ワーク・ライフ・バランスを進めていくコツを得る機会を提供できた。 ③災害対応の経験を女性から直接お聞きすることができ、女性の視点を活かした対策や心構えなど防災意識の向上につながった。	協働文化推進課	・ワールドカフェ方式のグループワークを取り入れたことにより、高い満足度が得られ、参加者数も目標値を上回ったことは評価できる。 ・グループワークやワールドカフェなどで参加者が積極的な意見交換けきる携帯で実施されたことは、意義があったといえる。今後集客の方法等を工夫することが必要である(早めの広報)アンケートなどの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。また、身近な問題をテーマ(介護・子育て・防災等)の継続的な開催を望む。 ・①③とも寒川町内で開催され参加人数も目標を大幅に上回り内容も満足度の高い講座となり、高く評価できる。特に③では女性のそれぞれの立場としての具体的な災害対応ののお話が直接聞けることは実際の災害時にとっても役立つうえ、防災意識向上につながると思う。今後も身近な内容で多くの人が参加したくなるような講座の開催を期待する。
	女性の活躍促進のための講座を開催し、女性リーダーの育成や住民活動等への参画を促進します。また、町以外で開催される講座等について情報提供します。	講座の参加人数 (人)	239					①男女共同参画推進市町村連携講座 「男女がともに輝く未来へ～みんなで考えよう協働のまちづくり～」 日時:平成29年1月22日(日) 場所:寒川町民センター展示室1 参加者:35人(男性22人、女性13人) 講師:萩原なつ子さん(立教大学社会学部/大学院21世紀デザイン研究科教授) 内容:地域における男女共同参画について理解を深め、協働で地域の課題を解決するためには女性の能力活用、参画促進が重要でそのためには男女とも意識改革が必要不可欠であることを学ぶことを目的に実施。5人×7組のグループ分けを行い、冒頭に9マス自己紹介を行い、男女共同参画基本法が市町村の計画のベースになっていることや、新しい協働、歴史的背景など替え歌を交え、わかりやすくご講演いただいた。後半は、ワールドカフェ方式でテーマ「寒川町でみんながいきいき暮らしていくにはどうしたらいいか」についてアイデアを出し合い、グループごとに発表をした。 ②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会 「介護は突然やってくる」 日時:平成28年10月15日(土) 場所:湘南NDビル6階6-1会議室(藤沢市) 参加者:79人(男性35人、女性44人) 講師:太田 差恵子さん(介護・暮らしジャーナリスト) 内容:講師の20年以上の取材活動やNPO法人での経験からもしも親が「突然」倒れたら介護と自分の仕事をどのように両立していけばよいかについて、具体的な実践的な手法をお話いただいた。 ③平成28年度防災講演会 「あなたは時どう動く～母として、嫁として、職員として～」 日時:平成29年3月12日(日) 場所:寒川総合体育館多目的室 参加者:125人 講師:澤田裕美子さん(福島県大熊町健康介護課保健衛生係長)武内一恵さん(福島県大熊町健康介護係長) 内容:東日本大震災発生に職員としてそれぞれの立場で災害対応に取り組まれた当時の経験と教訓など女性の視点でお話いただいた。 町以外で開催される講座の情報提供 3件 (2市1町広域連携事業) 女性リーダーの育成や、地域活動等への参画に結び付くよう、内容、講師、開催日、時間帯などを検討し、一人でも多くの人が参加を希望する講座を開催する必要がある。				

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
6	就労支援講座の開催		3	3				若者サポートステーションが事業内容を年度途中で精査したことにより、平成28年度は講座を協力して開催することができなかった。しかし、若者サポートステーションの取り組み内容や開催講座について、HP等で紹介・周知に努めた。	D	事業内容を精査したことにより、講座を協力して開催することができなかった。	産業振興課	・若者サポートステーションの事情により予定した共催による講座を開催できなかったことは仕方がないとしても、それに代わる講座を検討、実施すべきであった。今後、同様なことがあった場合には臨機応変な対応を行っていただきたい。
	若者サポートステーションと共催し、若者の就労支援のための講座を開催します。		0						3			

施策の内容（2）女性の社会参画に関する情報提供

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
7	男女共同参画に関する講座の情報提供		4	4				男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。 ①男女共同参画推進市町村連携講座「男女がともに輝く未来へ～みんなで考えよう協働のまちづくり～」 日時：平成29年1月22日（日） 場所：寒川町民センター展示室1 参加者：35人（男性22人、女性13人） 講師：萩原なつ子さん（立教大学社会学部/大学院21世紀デザイン研究科教授） ②2市1町（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）広域連携事業男女共同参画特別講演会「介護は突然やってくる」 日時：平成28年10月15日（土） 場所：湘南NDビル6階6-1会議室（藤沢市） 参加者：79人（男性35人、女性44人） 講師：太田 差恵子さん（介護・暮らしジャーナリスト） 町以外で開催される講座の情報提供。 ③平成28年度防災講演会「あなたはその時どう動く～母として、嫁として、職員として～」 日時：平成29年3月12日（日） 場所：寒川総合体育館多目的室 参加者：125人 講師：澤田裕美子さん（福島県大熊町健康介護課保健衛生係長）武内一恵さん（福島県大熊町健康介護係長） ○2市1町広域連携事業3件 共に生きるフォーラムふじさわ2016「震災から自分の身を守る～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～」ほか  講座等の情報を広く集めて提供するため、広報さむかわやSNSなどを活用した。情報量には限界があるため、どのような媒体が効果的か講座参加者に対しアンケート調査を行い、結果等を考慮し研究する必要がある。	A	広報紙やホームページ、SNS(Facebook、Twitter)等により町内外で開催される講座等の情報を提供することで意識改革の機会やスキルアップ等の支援をすることができた。	協働文化推進課	・グループワークやワールドカフェなどで参加者が積極的な意見交換できる携帯で実施されたことは、意義があったといえる。今後集客の方法等を工夫することが必要である(早めの広報)アンケートの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。また、身近な問題をテーマ(介護・子育て・防災等)の継続的な開催を望む。
	町内外で開催される、資格取得やスキルアップのための講座について情報提供します。		5									

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績					
8	求人に関する情報提供		30	30				ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と合同で湘南合同就職面接会を開催した。 日時:平成29年2月2日(木) 13時～15時半 場所:藤沢商工会議所ミナパーク 町単独での面接会の実施は難しいため、ハローワークや近隣市と連携が必要。	A	ハローワーク藤沢、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市と連携し湘南合同就職面接会を実施することができた。	産業振興課	・情報提供だけでなく、湘南合同で就職面接会が開催されたことは、とても評価できる。企業数だけでなく、参加人数も数字を入れていただくといいと思う。 ・町内からの参加企業数が30事業なのか不明、面接会に参加した町民の性別・年代等の数値がわかれば評価しやすい。
	役場ロビーに設置した端末機でのハローワークの求人情報を提供します。		30									
推進協議会各委員の評価			<p>【基本目標 I あらゆる分野での男女共同参画の推進】</p> <p>○全体的によく展開していると思う。LGBTに関する研修会があってもよいかと思った。</p> <p>○政策や方針決定などへの女性の参画を促進するためには意識改革が大切であり、ともに考えるための講座や各種情報提供は引き続き取り組んでいただきたいと思う。講座へ参画は40～50歳代が多いようだが、10～20歳代への若年層への教育も必要であると感じる。</p> <p>○あらゆる分野での男女共同参画とあるが、ここであげられている分野以外（例えば、教育、農業、町内会など）における実態等を明らかにする必要がある。</p> <p>○男女共同参画意識の醸成のためには、身近な話題（介護・子育て・防災など）を切り口にわかりやすく意識付けすることが必要である。そのための工夫を望む。</p> <p>○女性が職場でどのような状況なのか28年度の勤労者実態調査が行われていないので何とも言えないが、26年度の回収率は35%と低いので果たしてちゃんと把握できているのか疑問に思う。回収率を上げるための工夫とその結果を生かすような取り組みをすることを望む。</p> <p>○女性が地域や職場で能力を発揮し活躍するためには、パートナーである男性や家族の協力が必要不可欠と思う。そのための男性をターゲットにした講座等の開催や保育等についても工夫や強化を望む。</p> <p>○「女性の活躍のための講座の開催」では、ワールドカフェ方式のグループワークを取り入れたことにより、高い満足度が得られ、参加者数も目標値を上回ったことは評価できる。</p> <p>○事業として取り組まれている活動が、女性の参画の促進につながっていくよう、実施内容や方法について、28年度の反省を活かし、充実を図ってほしい。</p>									
推進協議会評価(事務局提案)			<p>【基本目標 I あらゆる分野での男女共同参画の推進】</p> <p>○町職員の管理職における女性の割合について、(管理職の)適性年齢である50歳以上の女性職員の比率が低い年代であることから低い結果となった。今後、女性職員を育成するためのプログラム(女性職員を対象としたものだけでなく、女性職員がいる男性管理職を対象とした意識改革研修など)を導入し、女性の管理職へ登用を推進して頂きたい。</p> <p>○政策や方針決定過程などへの女性の参画を促進するためには、意識改革が大切であり、ともに考えるための参加型講座の開催や各種情報提供を引き続き行い、女性の参画促進につながるよう、実施の内容や方法を工夫し充実を図ってほしい。また、10代～20代の若年層への教育やパートナーである男性や家族の協力も不可欠であるため、男性をターゲットにした講座の開催や保育等についても工夫や強化を望む。</p>									



<基本目標Ⅱ 男女の人権の尊重と異性に対する暴力の根絶>

施策の基本的方向 1. 異性に対する暴力防止の対策

施策の内容(1) 配偶者などからの暴力防止に関する意識啓発と被害者への支援

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
9	暴力防止に関する意識啓発		2	2				<p>○引き続きホームページの掲載を行った。なお28年度における町ホームページ訪問数は(庁舎外)137件。                  ○2市1町広域連携のなかでDV防止に向けた啓発チラシの作成を行い、寒川高校及び成人式にて配布した。                  ○窓口や公共施設のトイレにチラシ等を置き、「DV気づき講座」や相談窓口の情報提供を行った。                  今後も様々な機会を捉え、情報発信を行っていくよう検討していく。</p>	C	<p>広報紙による啓発はかなわなかったが、今年度も引き続き、寒川高校や寒川町子育て支援センターに伺い、チラシ等の配架にもご協力いただくことができたため。</p>	町民窓口課	<p>・DVの現状は想像以上に深刻と思う。町も取り組んでいると思うが、特に町広報誌ではさらに強化して取り組んで頂きたいと思う。</p> <p>・町民全員がホームページを見られる環境にないことから、広報誌による情報提供は重要な役割を果たす。紙面構成等の事情で実現しない状況もあると思うが、是非、広報誌による啓発も行ってほしい。</p> <p>・各機関に配架し様々な人の目に留まる様になった事は評価できるが、各機関と配架後、相談に繋がるなどの効果があったのか連携が必要なのではないかと考える。</p> <p>・広報については継続した実施が必要である。人の多く集まる場所や施設(民間の協力も得て)、イベントなどでの広報などの展開等きめ細かな実施が必要である。</p> <p>・啓発活動は単発では効果が薄く、適時複数回にわたり多種多様な手段で実施する必要があると考える。</p> <p>・相談窓口などの情報提供のポスターやちらしを、スーパーやコンビニ等に掲示依頼するなどより、多くの人の目に触れるような場が大切と考える。</p> <p>・ホームページ訪問数が137件もあり、関心の高さがうかがえる。「DV気づき講座」が開催され評価できるが啓発チラシが寒川高校及び成人式での配布や窓口、公共施設のトイレに置くなど一部に限られている。広報誌による啓発だけでなく、小中学校での配布も必要と思う。DV家庭で育った子どもは大人になってからアルコール依存症になってしまう症例もあり、子どもにも大きな影響があるため、そのような子ども達のケアも必要と考える。</p>
	<p>広報紙等を通じてDVに関する情報発信を行い、暴力防止に関する意識啓発を行います。</p>	<p>広報紙、ホームページでの啓発回数(回)</p>							1			
10	DV等に関する相談や関係機関との連携		12	12				<p>○関係機関との会議(7月25日)                  ○関係機関との定期的な情報交換 11回                  ○町で相談を受けた場合には、茅ヶ崎保健福祉事務所と連携しながら進めている。また茅ヶ崎保健福祉事務所で受けた相談であっても、各種手続きで来庁されるような場合は、連携を取り合っている。今後も適宜、情報共有できるよう努めていく。</p>	A	<p>茅ヶ崎保健福祉事務所と定期的に情報交換を行うことにより、スムーズな連携が行われているため。</p>	町民窓口課	<p>・情報交換は必要であるので、ほぼ月1回の開催は継続していただきたい。会議等は、緊急性がない場合でも、情勢の変化に応じた対応が必要な場合があるので、関係機関との連携は、引き続き密にしていきたい。</p> <p>・相談等に対応できる体制は整っているとのことであるが、相談があった時には既にハラスメント事案が発生してしまっていることから、事前の予防策が肝要と考える。最近ではハラスメントの形態も多様化してきており、世間には数多くの事案が出てきていることから、町役場でも管理者側と一般職員側とでそれぞれに対応したハラスメント研修を実施するなどの予防策を実施する必要があると考える。</p>
	<p>関係機関と連携しながらDV等に関する相談を受けるとともに、緊急一時保護事業に関する協定に基づき、DV被害者の緊急一時保護に向けた支援を行います。</p>	<p>関係機関との情報交換回数の回数(回)</p>							12			

施策の内容（２）各種ハラスメント防止対策の推進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
11	町役場における各種ハラスメント防止体制の充実	相談と処分の件数（件）	0	0				相談等に対応できる体制として、セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員及び相談員を設置している。 昨年度、今年度と相談はないが、相談しやすい環境づくりに努めていく。	A	目標値を達成しているため。	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ハラスメントは、どこでも起こり得る状況であると思う。これについての研修はぜひ実施していただきたい。</li> <li>本人（ハラスメントをする側）がとった行動や言動がハラスメントに該当するとは全く気付かずに、その行為や言動が結果として相手方（ハラスメントを受ける側）にとってハラスメントとなっているケースがあるものと思われる。ハラスメントを受けてしまった職員が相談しやすい環境を整えることは大変重要だが、ハラスメントを起させないための教育（研修等）にも取り組まれるとよいと思う。</li> <li>体制を整えていることは評価する。相談はない方がよいのは当然のことであるが、目標値を相談件数に設置するのは不適切であると考え。「0」を目標値にすることから内在する問題を相談しにくくなり、相談することを自主規制することにつながりかねない。体制強化や防止策を整えることが結果としての「0」の評価につながるため、目標を定めるのであれば、庁内での管理職対象の研修などの実施に目標を定めるべきではないかと考える。</li> <li>相談等に対応できる体制は整っているとのことであるが、相談があった時には既にハラスメント事案が発生してしまっていることから、事前の予防策が肝要と考える。最近ではハラスメントの形態も多様化してきており、世間には数多くの事案が出てきていることから、町役場でも管理者側と一般職員側とでそれぞれに対応したハラスメント研修を実施するなどの予防策を実施する必要があると考える。</li> <li>役場内の相談では周りを気にして出来ない方もいるだろう。相談は目標0でなくてもいいのでは。引き続き相談しやすい環境づくりに務めてほしい。</li> </ul>
	町職員間における各種ハラスメントの根絶に向けて、相談しやすい職場の雰囲気づくりや周知を行い、相談体制の充実を図ります。		0						2			
12	各種ハラスメント防止に関する啓発や各種相談窓口の情報提供	広報紙、ホームページでの啓発回数（回）	2	2			○引き続きホームページの掲載を行った。なお28年度における町ホームページ訪問数は（庁舎外）155件。 ○実際の相談はなかったが、相談があった場合に、より有意義な情報提供をどの様にしていくのかを検討していく。	C	ホームページへの掲載継続し、周知を図ったが、広報紙については掲載できなかったため。	町民窓口課	<ul style="list-style-type: none"> <li>町民全員がホームページを見られる環境にないことから、広報誌による情報提供は重要な役割を果たす。紙面構成等の事情で実現しない状況もあると思うが、是非、広報誌による啓発も行ってほしい。</li> <li>町民や企業等に対しても、どのような行動や言動がハラスメントに該当するのか、地道な広報啓発活動を継続していただきたいと思う。</li> <li>継続した啓発活動が重要である。町民がイベント等で集まる機会をさらに捉え啓発していくことが望ましい。</li> </ul>	
	広報紙などを活用し、各種ハラスメント防止に関する啓発や関係機関における各種相談窓口の情報提供を行います。		1					2				

施策の基本的方向 2. 人権尊重のための対策  
 施策の内容(1) 人権侵害に関する支援

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性			
13	各種相談の実施や人権に関する情報提供	街頭での人権啓発活動回数(回)	4	4				○特設人権相談及び街頭啓発活動 6月(1ヶ所)・12月(2ヶ所)実施 ○産業まつりでの啓発活動 11月実施 啓発の効果を量ることは難しいが、現状実施しているもの以外の各種行事などにおいても意識啓発の場を設けるよう検討していく。	A	街頭啓発において、多くの町民に啓発物品と併せてリーフレットを配布し、意識啓発に努めた。	町民窓口課	・継続した啓発活動が重要である。町民がイベント等で集まる機会をさらに捉え啓発していくことが望ましい。
	人権相談など各種相談を実施し、関係機関との連携を図ります。また、人権に関する様々な情報提供を行うとともに、街頭での啓発活動などを通じて町民への意識啓発を行います。		4						1			

施策の基本的方向 3. 生涯を通じた心身の健康づくりの充実  
 施策の内容(1) 男女の心とからだの健康づくりへの支援

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績		今後の方向性			
14	健康増進事業	成人健診(パパママ健診)の実施回数(回)	4	4				6/9、8/27、10/6、12/20、4回、219人 特定健康診査の対象となる40歳到達前から、自分の身体状況を把握し、生活改善のきっかけにもらうために実施している。 検診結果から、受診者が生活改善をできているかを把握することができていない。	A	39歳までの人たちが格安で受診できる町の検診は他にない。パパママ健診は、皆子連れであるため、受診者から「周りを気にせず、気楽に受診できる」という声があり、好評である。	健康・スポーツ課	・参加者が多いのはニーズに込んでいることと思う。こころと身体に関する講座であれば、思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期等各ステージに応じた課題に対応することも必要と思われる。例えばベビーヨガ、産後ヘルスケア、子育てママの骨盤底筋エクササイズなどの幅広いメニューでの実施も必要と思われる。 ・病気を早期発見する為にも町の検診は重要な役割を担っている。今後も継続してほしい。 ・気楽に受診でき、とても好評ということで高く評価できる。参加人数に男・女の人数も入れていただくとより評価しやすい。
	生活習慣病予防や健康維持・増進のための健診を実施し、町民の健康づくりを支援します。		4						2			
15	健康普及事業	健康づくりや食育をテーマとする講座の年間回数(回)	65	67				①チャレンジデー1回25,710人 ②各種健康講座24回900人 ③食生活講座16回958人 ④薬剤師会共催講座1回75人 ⑤歯科関連2回103人 ⑥体操の日18回1,145人  測定機器を借用して実施していた事業(骨密度測定、肺年齢測定等)は、機器の貸し出し元が貸し出し事業を廃止するとの情報があり、来年度以降いつまで借用できるか不明である。測定を含む事業の見直しが必要になる。	B	講座等の機会を利用し、性差による健康課題の普及啓発を行うことができた。単発のイベントや講座への参加をきっかけに、健康づくりや食育への意識が高まり、町事業への継続的な参加や自身の行動変容がみられた町民もいた。	健康・スポーツ課	・貸出元がなくなるのであれば、医療機関や機器メーカー等と連携して、継続することが必要である。 ・チャレンジデーの広報を駅前で見かけ、以前よりもわかりやすくなっている。結果を町の放送で流したので身近に感じられた。今後も継続的な取り組みをお願いしたい。
	地域の実情や町民のライフステージに合わせた健康づくりを支援するため、町民が自主的に健康づくりや食育に取り組むための機会の場を提供し町民一人ひとりの「自分の健康は自分で守る」という意識の促進を図ります。		61						3			

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
16	公民館講座（健康づくり講座）の開催		4	4				(町民センター)ゆるやか健康体操 6/20・27の2回開催 第1回募集20人 参加27人(男1・女26)参加率135% 第2回募集20人 参加24人(男1・女23)参加率120%	A	「ゆるやか健康体操」は日常生活で使わない筋肉をゆるやかに動かし、体感をゆるやかに鍛える体操で、昨年に続き、募集人数を超える参加者となり、関心の高さがうかがえ、継続とし、「自分でできる簡単マッサージ講座」は、男性の参加を増やすことを課題としながらも、参加率100%で関心がある事業となっているので、ともに継続とした。	公民館	・参加率が高く評価できるが、参加率を高めるため「健康マージャン」等はどうだろうか。 ・さらなる充実を望む。
	公民館講座を通じて健康に対する意識付けを図るなど、町民の健康づくりを支援します。	講座の開催回数(回)	4					(南部)自分でできる簡単マッサージ講座(2回) 11/5・11/26 定員10名 参加者10名(男性2名・女性8名) 満足度100%  男性を講師として招き開催した。今後も継続していく予定なので、男性の参加を増やすよう努力していく。	2			

施策の内容(2) 性に関する正しい知識と普及啓発

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
17	健康教育事業		1	1				1月の成人式で新成人に配布 日常生活の中で「健康増進」「がん検診」などを考える機会が少ないと思われる新成人に対して、それらを意識するきっかけ作りとなるように、冊子の内容を、男女ともにかかわる項目にしている。課題は、その後の新成人の行動を町で把握する機会を作るまでに至っていないこと。	A	冊子を配布できた。	健康・スポーツ課	・パンフレットの内容・発行元がわからないので評価はしにくい。若者向け、男女の人権の尊重についての内容のパンフレットでの広報であれば評価はできる。この項目にいれるのであれば、プランの目的に沿った内容での広報を望む。
	新成人等へのパンフレットの配布による健康教育を実施します。	小冊子の配布回数(回)	1						2			
18	「生きる力」の育成事業		10	10				学習指導要領に基づき、小・中学校の各学年における教科、道徳、総合的な学習の時間等を通して、実態に即した適切な性教育が推進された。 一例として、小学校では理科の授業にて「生命の誕生」を学ぶ。中学校では、家庭科で「保育」について男女で共修する。中学校の保健体育、技術・家庭科の授業は男女共修で行われている。 今後も社会的な側面での人間尊重・男女平等の観点に基づき、教育活動全体を通して、児童生徒の発達段階をふまえた性教育および様々な性に関する現代的課題(性同一性問題など)にも取り組む必要である。	A	児童生徒の健やかな心身の育成は、確かな学力、豊かな心とともに、大切な「生きる力」の一つである。学校では、学習指導要領に基づき、保健体育の授業等における「性教育」のみならず、あらゆる場面での生命に関する教育が展開された。	学校教育課	・学習指導要領に即した性教育の実施は、ほぼ達成したと思われる。しかし、性教育のみの他にも、固定的役割分担意識の改善や家庭科の男女共修などの取り組みについての情報提供が必要と思われる。性の多様性への対応に関する啓発や環境整備(トイレ・更衣室など)の問題については積極的に取り組んでいただきたい。 ・「いじめ」による自殺が後をたたない現在、時間数だけの評価は疑問に思う。今後「性同一性問題」など障がい者との違いを受け入れ共存していく機会や知恵を学ぶ必要を感じる。
	教科や道徳の時間、総合的な学習の時間等を通して、性教育を推進します。	性教育実施時間数(時間)	10						2			

<p>推進協議会各委員の評価</p>	<p><b>【基本目標Ⅱ 男女の人権の尊重と異性に対する暴力の根絶】</b></p> <p>○町民全員がホームページを見られる環境にないことから、広報誌等による情報提供は重要な役割を果たす。今後は、ホームページだけでなく、より多くの町民に周知できる方法について検討し、情報提供を行ってほしい。</p> <p>○ハラスメントやDVなどは、大人だけでなく10～20歳代の若年層への教育も必要であると感じる。</p> <p>○個別に事業をみていると、それぞれ町民にとって必要な事業と思われます。しかし、「現状と課題」と「評価も理由について」の記述からは、男女共同参画の推進が図られたかどうかの検証や到達点が見えにくくなっている。</p> <p>○男女共同参画の推進の視点からの事業評価を望む。</p> <p>○「男女の心とからだの健康づくりへの支援」に関する各事業については、ほぼ目標どおりに進められている。しかしながら、当該事業の対象者数に対して、実施した人数が適切なものかどうか疑問が残る。単に回数だけを行っていることにならないよう、今後の実施にあたっては、目的設定や実施内容、方法について工夫し、さらに充実して行ってほしい。</p> <p>○寒川町など農業が主体の地域では今だ家父長制度が残っており3世代同居の家庭では男女の人権の尊重は難しい問題だと思う。「暴力」はその背景にあるものの1つに貧困など表に出しにくい問題もあるのではないかと思う。地域や学校等で意識啓発が強化され講座の開催も期待する。</p> <p>○個人情報などの事で相談する事が少なくないか？</p> <p>○健康普及事業等は大変良いと思う。</p> <p>○男性が出やすいように。</p>
<p>推進協議会評価 (事務局提案)</p>	<p><b>【基本目標Ⅱ 男女の人権の尊重と異性に対する暴力の根絶】</b></p> <p>○「異性に対する暴力防止」や「各種ハラスメント防止」に関する意識啓発は、広報等による情報提供や10～20歳代の若年層への教育も必要である。今後はホームページだけでなく、より多くの町民に周知する方法を検討し、情報提供や被害者にも加害者にもならないよう引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>○「男女の心とからだの健康づくりへの支援」に関する各事業については、ほぼ目標どおりに進められているが、当該事業対象者に対し実施した人数が適切かどうか疑問が残る。単に回数だけ行っていることにならないよう、今後の実施にあたっては目的設定や実施内容、方法について工夫しさらに内容を充実させ、男女共同参画の推進の視点から、事業評価することを望む。</p>

<基本目標Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための環境づくり>

施策の基本的方向 1. 就業環境における男女共同参画の促進  
 施策の内容（1）男女平等な雇用の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
19	勤労者実態調査の実施（再掲）			50				次回平成29年度実施予定		3年ごとに実施している調査であり、平成28年度は未実施。次回は平成29年度に実施予定。	産業振興課	
	町内事業所に勤務する労働者の実態を明らかにし、労働行政の基礎資料とすることを目的に3年毎に実施します。その結果を事業所に知らせることにより、男女平等雇用の意識を喚起します。								2			

施策の内容（2）女性の就業・雇用環境改善のための支援の充実

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
20	労働相談に関する情報提供							・町のHPに県の相談窓口のリンクを貼り周知を図るとともに、メール等でも配信した。また平成28年度、町民窓口課の協力のもと町民相談の内容に労働問題を追加した。	A	インターネットを活用することで、柔軟かつ効率的に情報提供をすることができた。	産業振興課	・引き続き町民に周知を図るためにHPやメール配信の充実を望む。町民相談に労働問題を入れたことは評価するが、相談数や効果など報告を求めたい。  ・「労働者向けに労働に関する相談会を実施します」とあるが、それについての結果を記載してほしい。
	広報紙やホームページ等で労働相談窓口などの情報提供を行うとともに、相談内容に応じて関係機関を紹介するなど、労働相談に関する情報提供を行います。ハローワーク藤沢管内の3市1町で実施する湘南就職面接会時において、労働者向けに労働に関する相談会を実施します。		3	3					2			
21	労働講座の開催							平成28年10月27日(木)18時半～20時 町民センター視聴覚室で労政問題懇話会との共催で労働講座を開催した。 参加者44名(男41名、女3名) 「契約トラブル未然防止について」	A	労政問題懇話会と連携し労働講座を開催することができた。	産業振興課	・連携した取り組みは評価するが、労働法制の改正等が著しくなっているため、年1回ではなく、2回程度の開催を追求することができないか。
	労政問題懇話会及び県との共催により、労働環境に関する講座を実施します。		1	1					2			

施策の内容（3）育児・介護に関する制度の周知と普及の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績					
22	育児休業取得の促進		100	100				女性職員の取得率に比べれば男性職員の取得率は低いですが、以前に比べ取得率は増えている。職員間での意識が変わりつつあるが、引き続き意識を高める必要がある。	C	男性職員の取得率が3割であることから、取得率は増えてきているため。	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3人／9人の取得は素晴らしい状況であると思う。もっと評価を高くつけていただきたい。そしてさらに拡大に向け取り組んでいただきたい。</li> <li>・男性職員の取得率は増えてきているが、対象職員全員が取得できるよう、引き続き、取得しやすい職場の雰囲気づくりに向けた取り組みを進めてほしい。</li> <li>・取得率は増えてきているが、どの位の日数なのかわかると良いのでは。せめて産後一週間は全員が取得するようになって欲しい。</li> <li>・育児休業をしゅとくした本人や配偶者にもメリット、デメリットをアンケートなど調査し公表することで意識も高まるのではないかな。</li> <li>・幸運にも子宝に恵まれた男性職員にとって、今この瞬間しか経験することのできない子育ての醍醐味を、こうした休業制度の取得により是非味わってほしいと思う。先輩パパのこうした体験談を、庁内で共有できるとよいのではないかな。</li> <li>・100%を目指すのはよいが、取得者数、取得期間等について報告を求めたい。</li> <li>・一般企業に比べれば、33%の取得率はいいのかもしれないが、町職員だからこそ100%目指して今後も進めてほしい。</li> </ul>
	町職員が男女ともに育児休業を取得しやすい環境を整備し、子育ての支援を図ります。	男性職員の育児休業取得率（%）	33									
23	ワーク・ライフ・バランスに関する企業への啓発		3	3				国や県から提供された情報をメールで町内事業所へ配信した。	A	インターネットを活用することで、柔軟かつ効率的に情報提供することができた。	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールの配信のみでは、実際の効果を把握することはできない。事業所の人事担当者向けのワーク・ライフ・バランス講座の開催などの具体的な取り組みが必要と思われる。</li> </ul>
	国や県からチラシやパンフレットを町内事業所に配布し、制度の周知や普及の促進を図ります。	企業への啓発回数（回）	3									

施策の基本的方向 2. 仕事と家庭・地域活動との両立の支援  
 施策の内容(1) 子育て・ひとり親家庭への支援

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
24	保育環境充実事業		100	100				認可保育所に通常保育事業の実施を委託し、併せて事業に対する助成を行った。  平成29年3月現在定員 630人 利用者数 686人	A	保育の必要性のある児童を認可保育所において保育することで、保護者の就労を支援した。	保育・青少年課(子ども青少年課)	・定員を超えての受け入れの実施を評価します。待機児童数についての情報提供を望む。
	認可保育所や認可外保育施設、私立幼稚園に給付費や補助金を支出することにより、保育所の設備及び運営基準の維持、事業の充実や児童の処遇改善、保育サービスの供給増加等を図ります。		109						2			
25	子育て支援相談事業		100	100				相談日:月から金 9:00~16:00 相談件数411件 課題等:育児不安を抱える家庭は、増加の傾向にあり、相談内容も多岐に渡り複雑化・長期化の傾向がある。H28年度より、相談員2名体制で取り組み前年比130%となった。	A	他機関との連携を含む継続フォローや指導等、悩みを抱える子育て家庭への負担軽減を図った。	子育て支援課(子ども青少年課)	・相談体制の強化は評価できる。相談内容について情報提供を望む。  ・411件の相談件数に100%対応し、2名の相談員に体制を強化したことはとても評価できる。しかも他機関との連携をし継続フォローや指導などしており、今後も更なる事業の充実を期待する。中瀬にできた「子ども食堂」なども紹介や援助なども視野に入れてどうか？
	子育て全般についての相談指導と育児情報の提供を行います。		100						2			
26	児童クラブ運営事業		200	220				開所日293日 自宅で保育を受けることができない児童を受け入れることにより、保護者の就労や女性の社会進出を支援する。各児童クラブの運営負担を軽減するためNPO法人寒川学童保育会に一括して運営委託を行った。	A	保護者の就労や女性の社会進出により、子どもが安心して放課後を過ごせるよう、今後も同事業を継続していく。	保育・青少年課(子ども青少年課)	・定員増への対応は評価できる。実際の利用数よりも目標数が少ない、今後も充実をお願いしたい。また、利用希望者数、利用者の声などわかれば情報提供を望む。
	保護者が労働等により放課後昼間家庭にいない児童に、放課後の適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を推進します。		222						1			



事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
27	ひとり親家庭等医療費助成事業	助成対象者数(人)	800	800				ひとり親家庭等医療費助成事業の該当者に対し、周知及び助成を実施した。	B	申請主義であるため未申請者はいるが、全ての対象者に対して周知を実施した。	子育て支援課(子ども青少年課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者への周知は評価できる。対象者数及び取得率、利用者の声などわかれば情報提供を望む。</li> <li>未申請者がどれ位の人数がいるのか明記してほしい。まだどういった理由で申請しないのか？申請手続きをもっと簡素化する必要があるか？民生委員等で通じて対応する必要があると思う。</li> </ul>
	ひとり親家庭等の人 が病院等を受診したとき に支払う医療費のうち、 保険診療分の自己負担額 を助成します(所得制限有り)。		755						2			

施策の内容(2) 男性の家事・育児・介護などへの参加の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
28	父親・母親教室の開催	参加者の満足度(%)	100	100				4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦180人 夫74人参加。毎コースの4日目の日曜日は、約83%が妊婦とパートナー2人での参加となっている。天候不良(雪)による中止があり、参加者は昨年より減少した。	B	参加者延べ人数に占める、夫(パートナー)の割合は、H27年度24.5%、H28年29.1%で、男女での育児参加は、徐々にひろがっている。	子育て支援課(健康・スポーツ課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>夫(パートナー)の参加割合は、徐々に増えてきているが、今後も日曜開催などの工夫を図り、夫の教室参加を促してほしい。</li> <li>満足度が多いことは重要だと思いますが、満足度を数値目標にするのは適切でないと思われます。数値目標にするのであれば、参加者数を目標値に置くべきである。対象妊婦・パートナーの何割が参加したかどうかにより、啓発度が浸透しているかが測れる。</li> <li>家事・育児の男性の参加には夫婦で参加が大切と考えられる。今後共参加率が上がるよう努めたい。</li> </ul>
	初妊婦とそのパートナーを対象にした、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女が協力して家事や育児を行うことについて意識啓発を図ります。		95						2			
29	母子訪問指導事業	母子訪問合計件数(件)	1,000	1,000				継続的な訪問が必要なケースの増加により、訪問件数は、目標数を上回った。	A	母子健康手帳交付時のイクメンテキスト配布や訪問による個別支援で、男性への意識啓発が実施できた。	子育て支援課(健康・スポーツ課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問が目標を上回ったのは評価できる。町が把握できる全対象者に対する訪問率について情報提供をお願いしたい。また、次年度の目標値をもっと上げる必要がある。</li> </ul>
	乳幼児を育てている家庭を訪問し、育児状況の確認や子どもと養育者の心身の健康づくりへの助言等と併せて、男性の育児参加への意識啓発を行います。		1,443						2			
30	介護教室の開催	講座参加者合計数(人)	30	30				<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族介護教室開催日(回数): H28.11/1・8・15 H29.2/7・14・21(全て火曜日)(6回) 参加人数:21人(男性10人)</li> <li>参加対象者の中には家族のなかに要介護者を抱え参加したくとも参加出来ないという声も聞かれた。今後は、周知方法について、チラシ等の配布にとどまらず、包括支援センター等の職員にも声かけをお願いし、参加者数の増を図る必要がある。</li> </ul>	C	目標値に対し70%の実績となった。目標値に少しでも近づけるためには、延べ参加者はもちろんではあるが、実人数を増やすことが必要で、実人数が増えることにより、一人でも多くの方が、介護技術・対応方法を習得することになる。	高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を抱えて参加できないという声もあることから、参加のための支援などが必要である。</li> <li>参加を希望している人の中には、要介護者を抱えているため現行の開催方法では参加が難しいとの声もあることから、今後、実施方法について工夫が必要であると考えます。</li> <li>要介護者を抱えた方が参加しやすくするなど、今後も継続して教室を行う必要があると思う。</li> </ul>
	介護技術・対応方法を習得するための講習会の開催を通じて、男女がともに介護を担うことの意識啓発を図ります。		21						3			

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
31	公民館講座（男性向け講座）の開催		1	1				<p>(北部公民館)メンズクッキング教室(11月 1回 15人)</p> <p>(南部公民館)リトミック教室(2回) 10/14・10/21 定員40組 参加者25組 1歳6ヶ月までと1歳6ヶ月以上にクラスを分け、各クラス20組募集した。 満足度100%</p> <p>平日に行ったことにより父親の参加がなかった。他の講座等と調整し、週末に開催できるよう検討する必要がある。</p>	A	目標値達成のため	公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>「開催回数」は目標値を上回ったが、平日に開催した講座では父親の参加がなかったとのことであるため、今後は日曜開催などの工夫を図り、父親の講座参加を促してほしい。</li> <li>男性への参加や目標の回数を上回ったことは評価できる。声にもあるように、土日祝の開催など利用者の参加しやすい条件での開催を望む。</li> <li>男性向けの講座であるものの、男性が参加できていないのであれば、たとえ講座は開催したとしても、実績としてカウントすべきではないと考える。事業目的に合致するよう、男性が参加できる実施方法を再検討すべきと考える。</li> <li>男性向け講座を平日開催し「父親参加がなかったので週末開催を検証する必要がある」という課題があるのに「A評価」や「2の計画どおり取り組む」しかも「目標達成のため」という評価がいかげんなものか？</li> </ul>
	公民館講座を通じて、男性の家事・育児・介護への参加に対する意識付けを促進します。		2						2			

施策の内容（3）地域活動への参加の促進

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
32	ファミリーサポートセンター事業		1,700	1,700				<p>お願い会員701人、まかせて会員187人、どちらも会員146人 課題等:依頼会員に比べ提供会員が少ない。事業開始から10年以上が経過し、おねがい会員からどっちもやまかせて会員に登録していただける会員も多くなっていることから、更に事業の必要性を啓発していく必要がある。</p>	A	子育て家庭に対する経済的負担の軽減と保育ニーズの分散化を狙いとした町一部負担を導入し2年目となったが、活動件数は、前年比113%となった。 子育て家庭は、若年層が多く経済的にも不安を抱えた家庭も多い。利用件数から見てもこの事業を必要とする家庭にとっては効果的だったと考えられる。	子育て支援課(子ども青少年課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を大きく達成できたことは評価する。今後もニーズの増が見込まれることから、目標値をもっと上げる必要がある。</li> </ul>
	育児の援助を受けたい人を行う人が会員となって一時預かり等の事業を行うことにより、育児世代の地域活動への参加を支援します。		2,153						2			
33	生涯学習に関する情報提供		6	6			<p>男女を問わず、生涯学習に関する情報を提供した。 1.さむかわ町民大学 2.出前講座 3,4.生涯学習人材登録制度「ステップアップ」メニュー紹介用/登録者募集用 5.さむかわ生涯学習総合案内 6.広報さむかわ8月号特集ページに掲載 ○町ホームページの関連ページ訪問数は446件。</p>	A	「さむかわ生涯学習総合案内」を町内の各施設に配下し、広く生涯学習に関する情報提供を行った。 紙媒体は文字数等情報量に制限があるため、ホームページ、Twitter、メール配信サービスを活用し情報量の充実をしていく。	協働文化推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>単なる男女を問わず生涯学習の取り組みや広報の回数では評価ができない。町民大学や出前講座などの既成の事業の中にワーク・ライフ・バランスをテーマにした講座などが含まれているのか、また、広報がどのようにされたかの情報提供をお願いしたい。</li> </ul>	
	さむかわ町民大学、出前講座、生涯学習人材登録等の学習情報を提供し、地域活動への参加を支援します。		6									2

<p>推進協議会各委員の評価</p>	<p>【基本目標Ⅲ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）推進のための環境づくり】</p> <p>○このⅢに関しては町役場こそが率先して取り組んで頂きたい。一部にブラックな状況があるのではないか。</p> <p>○男性の育児休業取得促進には、取得しやすい職場の雰囲気づくりが必須であり、取得しやすい雰囲気の創出に向けて職員間の意識を高めていくためにも、例えば、町長をはじめ町の幹部職員が「イクボス宣言」を行うなどにより、取組みを進めてほしい。</p> <p>○ 育児や介護に男女の分け隔てなく携わることが当たり前の中となるよう、これまでのさまざまな取組みを通じた啓発を継続することが、結果としてワーク・ライフ・バランスの実現につながるのではないのでしょうか。</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスの実現は、町内の企業等の努力が不可欠である。実現のための積極的な啓発・支援等の方策が重要である。</p> <p>○長時間通勤や時間外労働の実態など改善に向けた県や近隣市町村との連携した取組みを望む。</p> <p>○ワーク・ライフ・バランス推進のための環境づくりとしての取組み事業の多くはほぼ目標をクリア できていることから、環境づくりはある程度できていることになる。したがって、ワーク・ライフ・バランスが実際に推進できているのか検証する必要と考える。今後、推進度合いに応じて事業の見直しを検討してほしい。</p> <p>○寒川町のアンケートによると理想では男女ほぼ同じ位「仕事と家庭の生活を両立したい」と考えているものの、男性はやはり「仕事は優先したい」との考えが強いのが現実である。そういった男性の意識を変えるような講座等の開催や支援を望む。また子どもの貧困がいわゆる昨今「子ども食堂」などやフードバンクなどの支援も民間だけに頼らず強化することを期待する。</p> <p>○事業所においてはまだまだ男女の差があると思う。行政もいろいろな面で働きかけてほしい。</p> <p>○育休等もとりにやすい環境になりつつあるが、もっと促進してほしい。</p> <p>○男の料理教室など数を増やすことは？</p>
<p>推進協議会評価 (事務局提案)</p>	<p>【基本目標Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進のための環境づくり】</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスの実現のためには町役場が率先して取り組むことや、町内の企業等の努力が不可欠である。育児や介護に積極的に男女が携わることが当たり前の中となるよう、男性の意識改革のための講座するなど、これまでのさまざまな取組みを通じた啓発を継続することが実現につながるのではないかと。</p> <p>○町男性職員の育児休業取得の促進のためには、(対象職員全員が取得できるよう)職場の雰囲気づくりが必須であり、取得しやすい雰囲気づくりのため幹部職員が「イクボス宣言」を行うなど取組みを進めてほしい。</p>

<基本目標Ⅳ 男女共同参画社会促進のための意識づくり>

施策の基本的方向 1. さまざまな場における意識づくりの推進  
 施策の内容(1) 職場や地域における意識啓発

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
34	男女共同参画に関する講座の開催		80	80				男女共同参画推進の講座として、神奈川県、藤沢市及び茅ヶ崎市と連携した講座を開催した。	A	①男性の参加者数が女性を上回り、参加者数についても目標値を上回った。ワールドカフェ方式のグループワークでは、性別や年代の垣根を越えた話し合いができたことで満足度の高い講座となった。 ②参加者も40-50代の有業者の男女が多く、ワーク・ライフ・バランスを進めていくコツを得る機会を提供できた。	協働文化推進課	・グループワークやワールドカフェなどで参加者が積極的な意見交換できる携帯で実施されたことは意義があったといえる。今後集客の方法等を工夫することが必要である(早めの広報)アンケートなどの中身を協議会に情報提供し、今後の講座の内容や方法について協議会委員の意見を聞くことも必要である。行政主導ではなく、住民参加型の方法を追求していくことが必要である。また、身近な問題をテーマ(介護・子育て・防災等)の継続的な開催を望む。 ・①②とも土日開催もあってもか、男性の参加者も多く満足度の高い講座となりとても評価できる。が、参考資料の第3次さむかわ男女共同参画プランの事業実績評価報告において、事業内容46の推進協議会の事業別意見欄で「事業所を対象とした講座を是非実施してほしい」とのコメントがあるので、考慮してほしい。
	事業所向けまたは生活に密着した視点から男女共同参画に関する講座を開催し、職場や地域における男女共同参画への意識啓発を図ります。	講座の参加人数(人)	114					①男女共同参画推進市町村連携講座「男女がともに輝く未来へ～みんなで考えよう協働のまちづくり～」 日時:平成29年1月22日(日) 場所:寒川町民センター展示室1 参加者:35人(男性22人、女性13人) 講師:萩原なつ子さん(立教大学社会学部/大学院21世紀デザイン研究科教授) 内容:地域における男女共同参画について理解を深め、協働で地域の課題を解決するためには女性の能力活用、参画促進が重要でそのためには男女とも意識改革が必要不可欠であることを学ぶことを目的に実施。5人×7組のグループ分けを行い、冒頭に9マス自己紹介を行い、男女共同参画基本法が市町村の計画のベースになっていることや、新しい協働、歴史的背景など替え歌を交え、わかりやすくご講演いただいた。後半は、ワールドカフェ方式でテーマ「寒川町でみんながいきいき暮らしていくにはどうしたらいいか」についてアイデアを出し合い、グループごとに発表をした。 ②2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業男女共同参画特別講演会「介護は突然やってくる」 日時:平成28年10月15日(土) 場所:湘南NDビル6階6-1会議室(藤沢市) 参加者:79人(男性35人、女性44人) 講師:太田 差恵子(介護・暮らしジャーナリスト) 内容:講師の20年以上の取材活動やNPO法人での経験からもしも親が「突然」倒れたら介護と自分の仕事をどのように両立していけばよいかについて、具体的な実践的な手法をお話いただいた。 事業所に絞った講座ではなかったが、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスについてできることから少しずつ取り組むことを考える機会となった。職場や地域における男女共同参画への意識啓発につながる講座を開催する必要がある。				

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
35	人権教育推進事業		1	1				男女を問わず、よりよい人間関係づくり、日常生活における人権尊重について考える機会を提供した。 「アサーティブコミュニケーション講座」 ・9/10(土) 18名(男性1名・女性17名)	A	目標値を達成した。 男女共同参画の意識を含め、人を思いやる心、悩みを相談できる環境、よりよい人間関係づくりといった日常生活において人権への配慮がその態度、行動に現れるような人権感覚が身につくよう、人権に関わることが常に身近にあることに気づき、考える機会を提供できた。	教育総務課	・生涯学習からの視点からの講座の設定は評価する。しかし、男女共同参画の視点から講座等のテーマを設定する企画を望む。  ・講座の開催は行われているが、募集人員30名に対して実際の参加者が18名であり、男女比も1名対17名となっている。この事業の本来の目的、内容に沿ったものとなっているのか検証してほしい。
	人権教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など社会教育の機会を提供します。		1						2			

施策の内容(2) 家庭における意識啓発

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
36	父親・母親教室の開催(再掲)		100	100				4日間1コースを年間5回実施し、延べ妊婦180人 夫74人参加。毎コースの4日目の日曜日は、約83%が妊婦とパートナー2人での参加となっている。 天候不良(雪)による中止があり、参加者は昨年より減少した。	B	参加者延べ人数に占める、夫(パートナー)の割合は、H27年度24.5%、H28年29.1%で、男女での育児参加は、徐々にひろがっている。	子育て支援課(健康・スポーツ課)	・満足度が多いことは重要だと思いますが、満足度を数値目標にするのは適切でないと思われます。数値目標にするのであれば、参加者数を目標値に置くべきである。対象妊婦・パートナーの割合が参加したかどうかにより、啓発度が浸透しているかが測れる。  ・夫(パートナー)の参加割合は、徐々に増えてきているが、今後も日曜開催などの工夫を図り、夫の教室参加を促してほしい。
	初妊婦とそのパートナーを対象にした、妊娠・出産・育児や家庭づくり等についての講座の開催を通じて、男女がお互いを理解し尊重することについて意識啓発を図ります。		95						2			
37	家庭教育講座等開催事業		1	1				「ママパパのための絵本講座」 ・12/10(土)「わらべうたベビーマッサージと絵本でふれあい遊び」 16家族(38名) (大人:22名(男性6名・女性16名)／子ども:16名(男性9名・女性7名)) ・12/17(土)「絵本で子育て講演会」 11名(男性2名・女性9名) 「パパママいっしょにニコニコ子育てライフ」 ・1/29(日) 7家族(22名) (大人:14名(男性7名・女性7名)／子ども:8名(男性1名・女性7名))	A	目標値を達成した。 母親だけでなく、父親の参加も狙い、土日開催としたため、夫婦で参加した家族もあり、男性の育児参加についても啓発することができた。また、1回については、父親ならではの育児や夫婦のパートナーシップをテーマに開催し、男女共同参画の意識啓発を含め、父親の育児参加を促す機会を提供できた。	教育総務課	・開催回数が目標を上回ったことは評価できる。ジェンダーの視点から作成された絵本などの教材の購入を進めるなどして、より意識の啓発を望む。また、指導者向けの講座の開催を望む。  ・土日開催したことで夫も参加でき育児参加について啓発できた事だけではなく、母子が外に出ること、家族以外との関わりも間近で見ることができ夫婦で共感できることも増えたのではと感じた。  ・土日開催としたため、夫婦や家族の参加が多く、男性の育児参加や夫婦のパートナーシップなど男女共同参画の意識啓発ができとても評価できる。
	家庭教育講演会等の講座、講演会を開催して、男女共同参画の意識啓発など社会教育の機会を提供します。		3						2			

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値					
			実績	実績	実績	実績	実績					
38	公民館事業（家庭教育講座）の開催		2	2				<p>（南部公民館）リトミック教室（2回） 10/14・10/21 定員40組 参加者25組 1歳6ヶ月までと1歳6ヶ月以上にクラスを分け、各クラス20組募集した。 満足度100%</p> <p>平日に行ったことにより父親の参加がなかった。他の講座等と調整し、週末に開催できるよう検討する必要がある。</p>	A	<p>定員には満たなかったが、年齢でクラス分けをしたことにより、より年齢にあった講座となり、参加した親からの評判も良かった。</p>	公民館	<p>・今般、指定管理者制へ移行したが、民間の知見・蓄積を生かし充実した制度を期待したい。</p> <p>・来所率の向上への努力を評価する。来所できない理由等がわかれば、100%に向けた改善が図れると思われる。</p> <p>・「開催回数」は目標値を達成したが、平日に行ったことにより、父親の参加がなかったとのことであるため、今後は日曜開催などの工夫を図り、父親の講座参加を促してほしい。</p>
	公民館講座を通じて、男女共同参画の意識づくりを図ります。		2						1			
39	図書資料の充実		1	1				<p>平成28年度の家庭教育関係資料の購入点数は108点、購入金額は、約15万9千円でした。様々な分野から家庭教育に関する資料を収集し、当初の計画より多くの点数を提供する事ができた。 今後も、いかに利用者の要求を的確に把握し、資料収集を行い、提供していくかが課題である。</p>	A	<p>様々な視点から家庭教育関係の資料を収集し提供することができた。 金額、点数も当初の目標を大幅に上回ることができたため。</p>	寒川総合図書館	<p>・男性への参加や目標の回数を上回ったことは評価できる。声にもあるように、土日祝の開催など利用者の参加しやすい条件での開催を望む。</p> <p>・資料の収集や提供することができても評価できるが、より多くの人が活用できるようもっと広く広報誌等で情報提供してはどうか。</p>
	男女共同参画に向けた、家庭教育関係の資料の充実を図ります。		3						2			

施策の内容（3）学校等における意識啓発

事業番号	事業名		28年度	29年度	年度	年度	年度	現状と課題	評価	評価の理由	担当課	推進協議会の事業別意見
	事業内容	指標	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値		今後の方向性			
			実績	実績	実績	実績	実績					
40	教職員の資質向上事業		240	240				<p>教職員研修会(5/30、7/26、8/30、2/8、全4回 253名)および教育講演会(11/17 39名)もに於いて、人権感覚を磨き、人権や男女共同参画に配慮した授業づくりや教育課題の解決力の向上などを行い、意識を高めた。</p> <p>特に教育講演会の「LGBTってなに？」や第4回教職員研修会「通常学級におけるインクルーシブ教育」では、人権に配慮した社会、教育について理解を深め、男女共同参画社会を推進する意識の啓発ができた。</p> <p>・研修会、教育講演会男女参加比 137:155</p>	A	<p>本年度も、大変充実した研修会や講演会を開催することができた。「人権教育やインクルーシブ教育」そして男女共協同参画の観点から今後も継続して研修会を行っていく必要がある。</p>	学校教育課	<p>・参加目標が数値を上回ったことは評価する。研修の目的や目標、対象もあるが、かならずジェンダーの視点を入れたテーマでの講座の開催を望む。</p> <p>・職場や地域、家庭などさまざまなシーンにおける意識啓発が重要であることは言うまでもないが、これらのシーンでは個々の事情により必ずしもこうした取り組みが十分に機能しないことも考えられる。学校、特に小・中学校は義務教育であるので、すべての生徒・児童に効果的に意識啓発を促すことが可能であると考ええる。</p> <p>・大変充実した研修会や講演会が開催できても評価できるが、近年先生達はとても忙しく子どもと接する時間があまり取れないとも聞くので、無理の無い範囲で今後進めてほしい。</p>
	教職員向け講演会や研修会等を開催し、児童・生徒への人権教育の充実を図ります。		292						2			
41	中学生人権作文コンテストの実施		150	150				<p>○教頭会での話しかけを継続したことにより、応募者が目標値を上回った。</p> <p>人権擁護委員会の事業であるが、若年期から人権意識を身に付けることは重要であり、事務局として協力しながら、引き続き多数の参加が図られるような方法を検討していく。</p>	A	<p>参加者の募集は町立中学校等に対して行っているが、夏休み期間に多くの課題の中から選択することになり、生徒の希望や学校の取り組み方に依存せざるを得ず、応募者数が少ない状況であったが、教頭会での話しかけが功を奏し、応募者数が目標値を上回ったため。</p>	町民窓口課	<p>・応募が目標を上回ったことは評価できるが、人権全般だと男女共同参画をテーマにした作品かどうかの判断ができないので評価ができない。応募のテーマ別内訳の情報提供を望む。</p> <p>・職場や地域、家庭などさまざまなシーンにおける意識啓発が重要であることは言うまでもないが、これらのシーンでは個々の事情により必ずしもこうした取り組みが十分に機能しないことも考えられる。学校、特に小・中学校は義務教育であるので、すべての生徒・児童に効果的に意識啓発を促すことが可能であると考ええる。</p>
	関係機関と連携して人権作文コンテストを実施し、人権に対する生徒の意識啓発を図ります。		202						1			
<p>【基本目標Ⅳ 男女共同参画社会促進のための意識づくり】</p> <p>○全体として人権の観点を押し出して取り組みを進めて頂きたいと思う。</p> <p>○ほとんどの事業で28年度の目標を達成しており、評価できるが、事業によっては、男性の参加率が低いものも見受けられるため、今後も引き続き、一人でも多くの男性の参加を促すよう、開催日の工夫や効果的な広報に努めてほしい。</p> <p>○最近の新聞の投書欄に、彼氏が車道側を歩くとか、食事代を出してくれるとか、こういった振る舞いが男女で対等に見られていないと感じるとの記事があった。これに対してはいろいろな考え方や捉え方があると思うが、地道な啓発活動の積み重ねにより、町民全体の意識（男女共同参画における常識の基準）が変わり、男女共同参画の社会が促進されていくのだろうと思う。職場や地域、家庭、学校など、あらゆる場面、年代への意識啓発について、引き続き取り組んでいただきたいと思う。</p> <p>○個別に事業をみていると、それぞれ町民にとって必要な事業と思われる。しかし、「現状と課題」と「評価も理由について」の記述からは、男女共同参画の推進が図られたかどうかの検証や到達点が見えにくくなっている。</p> <p>○男女共同参画の推進の視点からの事業評価を望む。</p> <p>○基本目標Ⅳのほとんどの事業がほぼ目標に掲げた講座等の開催回数・参加人数の実績に到達しており、その点での評価はできる。今後、これら講座等を実施したことによる本来の目的への影響度合いについて検証する必要があると考える。</p> <p>○さまざまな講座の開催により、男女共同参画社会促進のための意識づくりにはとても役立っていると思う。ただ職場についての講座がないのがとての残念に思う。今後に期待したい。</p> <p>○家庭における意識啓発と学校等における意識啓発事業は今後共継続して行っていく必要があると思われる。小・中学校における人権教育の継続が望まれる。</p>												
<p>【基本目標Ⅳ 男女共同参画社会促進のための意識づくり】</p> <p>○男女共同参画社会促進のための意識づくりについて、ほとんどの事業で目標を達成しており、評価できるが、男性の参加率が低いものも見受けられた。今後も引き続き一人でも多くの男性が参加できるよう、集客方法や開催日を工夫し、効果的な周知に務めてほしい。</p> <p>○男女平等意識や男女共同参画について理解を深めるため、職場や地域、家庭や学校などあらゆる場面、年代への意識啓発や人権教育について取り組み、これらの事業について、効果を検証する必要がある。</p>												